

「危険意識を広めたい」

群馬県 前橋市立第六中学校 3年 高橋 芽生

日本は、世界でも有数の土砂災害の多い国として知られています。今までも東日本大震災や熊本地震などでも土砂災害は大きな被害をもたらしました。

記憶に新しいのは、先月に静岡県熱海市で起きた伊豆山土砂災害です。長時間降り続けた雨や盛り土が大災害につながった原因と言われています。土砂に押しつぶされた住宅やなぎ倒された木によってふさがれた道路はこの災害のすさまじさを物語っていました。今も懸命な捜索が続いていますが、まだ数名の行方不明者が発見されずにいます。普段は優しく人々を見守っているような山が、一瞬にして人々の命を奪うものになってしまうことに恐怖を感じ、変わり果てた山の姿に衝撃を受けました。

この夏休みにも豪雨の影響などで冠水や土砂災害が起きているというニュースを何度も目にしました。しかし、土砂災害の少ない地域で危険意識が低いと思います。私もそうですが警報が出て、「この地域には関係ない」「大したことはないだろう」と流してしまうことはありませんか。最近ではニュースをあまり見ないという人も少なくありません。このような状況で土砂災害に直面した時、自分の命を守ることができるでしょうか。

私の父は法面工という仕事をしています。職人が少ない業界と言われていて、知っている人も少ないと思います。法面工とは、山の斜面の落石や崩壊を防ぐために、コンクリートで覆ったり植生マットや籐の貼りつけの工事などをする人です。山の中や川で危ない箇所での作業なので大きな岩が落ちてきて体に当たったり、斜面で足をもっていかれたりすることがあるそうです。常に様々な危険と隣合わせの中安全の為作業をする父を、父の仕事をとっても誇りに思います。

しかし「被害を出さないように、大きくしないように調査したり、1番の技術で工事をするけど、土砂や土石流に簡単に破壊されることもある」と教えてくれました。今世界でも「異常気象」が問題になっていますが、私は異常気象は、もはや異常ではなくなっていると思います。人間の技術を上回る、恐ろしい災害がいつ起きてもおかしくありません。

災害前、私たちができることは自分の住む地域の危険な場所や避難所を家族で確認したり、最低限の物だけでも準備しておく。それから他県であっても警報やニュースに耳を傾け、万が一に備える。土砂災害の予兆である山鳴りや泥臭さ、河川の状況などを把握しておき、日頃から自然の様子に注意することだと思います。

そして、災害が起きそうな状況や災害時には正しい情報を見極めて早め早めの避難が最優先です。

伊豆山土砂災害で被災した男性への取材で「隣の家が5秒で消えた」と話していました。私はまだ、土砂災害に遭遇したことがなく、本当の恐ろしさを知っているとは言えません。しかし、今回色々な土砂災害やそれに伴う被害の記事や写真を見て、「備えておくこと」の重要性を知り、決して他人事ではないと気付かされました。

土砂災害に限らず、自然災害自体を防ぐことは私たちにはできません。だから災害前・災害時の1人ひとりの意識・行動が本当に重要になります。私は自分ができることから、備えていきたいです。